

2022年9月10日

令和3年度証券経済学会年報 優秀論文賞

受賞論文：山根智沙子・阿萬弘行・本西泰三「大学生のお金に対する禁忌感の意識調査：
金融リテラシー・家庭環境との関係」
年報第56号掲載

証券経済学会年報編集委員会
委員長 鈴木健嗣

選考にあたり、以下の基準で審査を行った。

- ・研究論文として独創性・先駆性があるか
- ・研究方法が適切になされているか
- ・研究論文の学術的価値・社会的なインパクトがあるか

受賞作は、以上の点すべてを高い水準で満たしており、令和3年度証券経済学会年報優秀論文賞にふさわしいとの結論に達した。

山根・阿萬・本西論文は大学生を対象にしたアンケート調査をもとに、お金に対する意識（お金に対する禁忌感、経済取引モラル）を定量化し、金融リテラシーへ及ぼす影響を検証した論文である。社会において貯蓄から投資への流れをいかに作るか、金融サービスの多様化、高度化も相まって、金融リテラシーの向上は日本社会における重要な課題といえる。本稿の検証結果からは、①お金への禁忌感が高い人は金融リテラシーが低い、②両親の学歴が高いほどお金に対する禁忌感が弱い、③祖父母の金融知識や投資経験は孫の金融リテラシーを高める、④幼少期のお金の管理法もお金に対する意識に影響を及ぼすことを確認した。そして、金融リテラシーや家族観での金融知識と禁忌感の伝播が生じている可能性や日本独自の因子の存在を提示している。この結果は、社会的・学術的なインパクトは高いと評価できる。アンケート調査としての対象が大学生に絞られ、標本数は少なく、関西地区に偏っているものの適切な統計分析を行っていることが評価された。